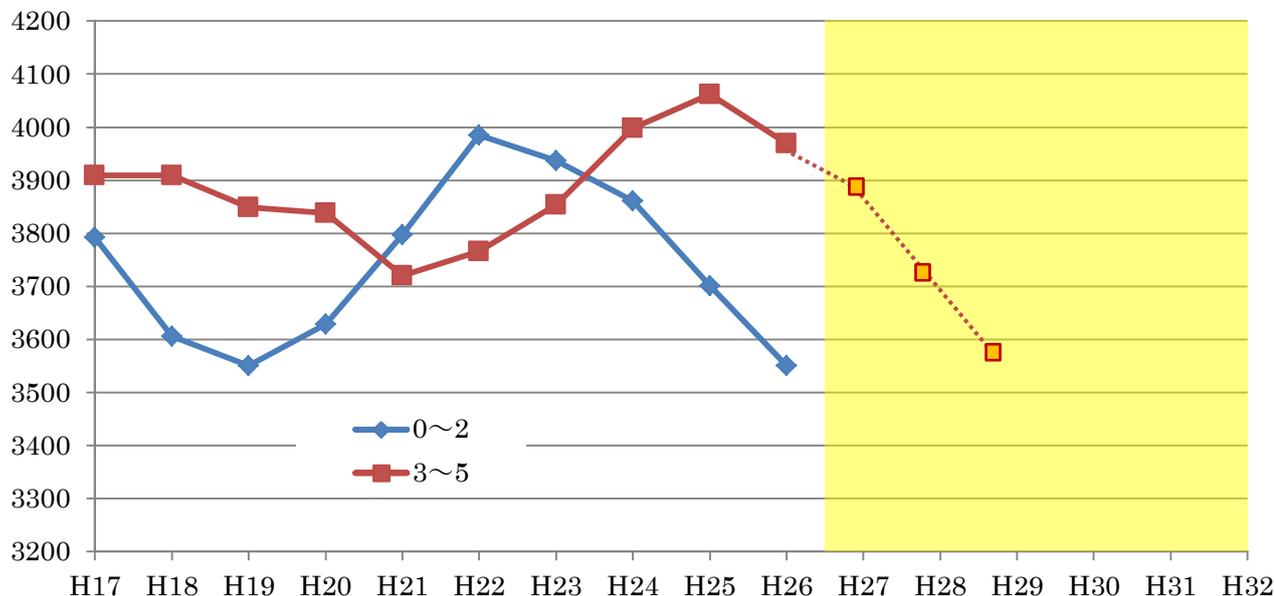


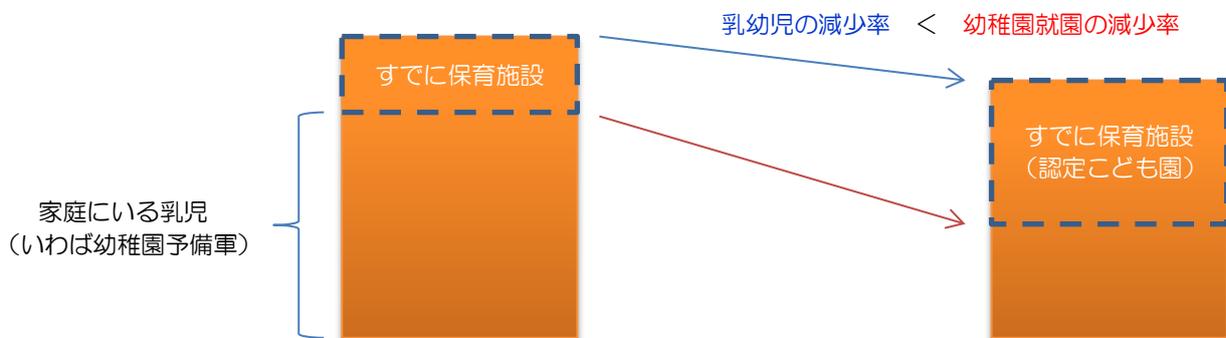
タイトル: 続・東村山市の幼稚園就園人口の予測

各地で実際に起こっている現状と今後の予測です。予てから見通してきた懸案をグラフにしてみました。

【乳幼児人口の推移から予想される幼児人口（東村山市）】



- 現状
 - H26年までの数字は、調査に基づく実数です。
 - 乳児の人口を3年ほどスライドする事で、この先の幼児人口が予想されることは言うまでもありません。
 - H25年度をピークに、H27年度までは緩やかな減少ですが、この先はかなり大幅な減少が続く見込みです。
- 陰に潜む事実
 - H23年頃より、待機児解消促進プランとともに、市内各所に保育施設が増設されたこともあって、H24年以降の急速な減少期に、多くの乳児が保育施設に入ることが出来ました。故に、H27年以降もそのまま保育施設に残る園児が多くなると見られ、このグラフの減少以上に幼稚園への就園率が下がる事が見込まれます。
- 実際に、様々な地域で「幼稚園児がいない」という悲壮な声が聞こえてきています。少子化のペースが速い地域では、さらにこのような状況の上に、保育施設の認定こども園化（教育施設化）も加速しており、想像を絶するペースで幼稚園児の減少が始まっている現状がみられました。



東村山むさしの第一・第二認定こども園



第一・幼稚園型認定こども園

第二・保育所型認定こども園

タイトル: 続・東村山市の幼稚園就園人口の予測

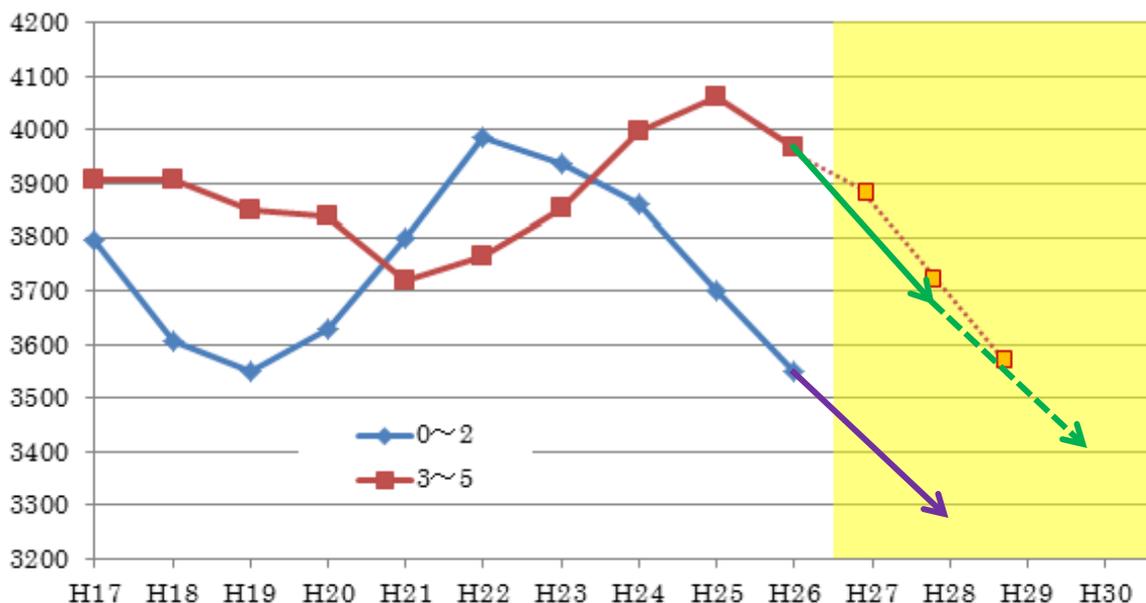
以下、2016年10月20日、更新。

続きまして最新の更新。平成28年5月1日現在の実数、0~2歳児=3,275人、3~5歳児=3,672人を、以前作成したグラフに、それぞれを紫色と緑色の実線で落とし込むと下記のようなグラフになります。平成28年までの幼児数の減少は、おおよそ予想通りの推移となったことが見受けられます。

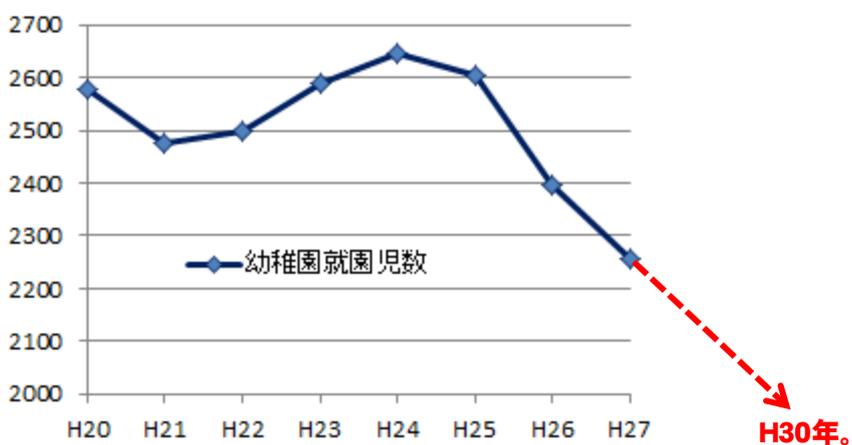
さらに、その0~2歳児の実数からの3~5歳児の予測を緑色の点線で落とし込むと、平成30年までは同様のペースで市内幼児の減少が起こることが予想されます。

果たして、ここでいきなり乳児の減少に歯止めはかかるのでしょうか？そうはいかないかと思われます。

【乳幼児人口の推移から予想される幼児人口（東村山市）】



続いて、右のグラフは、市内幼稚園に就園している幼児の実数です。平成27年までは、まさしく予想した通り、およそ3年で400人近い減少が起こっているのですが、それがまだまだ平成30年以降もこのペースでの減少が続くことが濃厚となったことが見受けられます。ですので、たとえ各幼稚園への入園希望者が減り続けたとしても、それは見込み通り、始まったばかりとの結果とも言えます。



(それ以降も、厳しい時代が続く見込みです。)

また、遡りますと、これが団体単位で対策をすべきか、確実な下山経営を考えるか、新事業などへの転換を考えるかなど、過去の時点で早急に対策をとるべきだと訴えてきた末の姿ではないでしょうか。そして、それに加えた社会背景、いわば、保育需要が高まれば、この予想以上に幼稚園児の減少は加速していきます。

東村山むさしの第一・第二認定こども園



第一・幼稚園型認定こども園

第二・保育所型認定こども園